

## コロナ禍における県内観光の特徴 ～龍馬パスポートデータの分析を通して～

1230450 窪田有羽里

指導教員 土屋 哲

### 研究背景

新型コロナウイルス感染症拡大により、高知県の観光産業はマイナスの影響を大きく受けた。そんな中、感染リスクを抑えながら楽しむ旅行（マイクロツーリズム）の注目が高まっており、コロナ禍では県内からの誘客に取り組む必要が生じたといえる。効果的な観光政策の立案のためにはデータの利活用が不可欠である。しかし、高知県の観光統計はおもに県外からの観光客を対象にしており、当県在住者が行う県内観光に関して利用可能なデータは少ない。

### 研究目的

本研究では、高知県在住者が行う県内観光行動を把握する手がかりとして、龍馬パスポートに着目する。同報告書より得られるデータの分析などを通して、県外観光客の観光行動のみならず、コロナ禍における県内観光の実態・特徴を把握することを目的とする。

### 研究方法

分析には、令和元年度と令和3年度の龍馬パスポート利用者動向に係る報告書を用いた。その際、龍馬パスポートの参加施設をエリア・テーマ別に分類するとともに、コロナ前とコロナ禍を比較できるようにするために、スタンプ供給者（参加施設）側の情報を用いて、コロナ禍における利用数の真値を算出した。

### 分析結果

コロナ禍では、県外利用者の割合が減り、県内利用者の割合が増えた。エリア別に見ると、県西部のエリアの割合が増加し、令和3年度に新しく加わった施設数も同じく県西部エリアが多かった。施設テーマ別に見ると、「宿泊施設」の割合が大幅に増加し、「ご当地グルメ」の割合が大幅に減少していた。

### 考察・結論

コロナ禍の高知県観光を支えているのは県内在住者である。龍馬パスポートの参加施設が新たに加わることで、その付近の施設も利用するようになる、また、県内であれば、宿泊を伴う旅行でも比較的抵抗が少ないと推測できた。分析と結果の考察を通して、コロナ禍における県内観光の実態・特徴を把握することができた。これらの発見も含めて、高知県の観光振興を図っていくためには、複数の統計情報を総合的に見るとともに、それらを利活用する必要がある。